

副市長がおっしゃったように尺度、視点というものを取り入れて、重要な部分はどういうふうに私は思うんですけれども、全ての項目に全部理由をつけるというともうその審査の委員の方が大変な思いだと思いますので、その辺はそこまですべて負担かけなくてもよろしいかと思いますが、例えば収支の積算は適切かというようなことに対しては、やっぱり尺度、視点というものを付けていただければなと思っておりますが、もう一度、済みません、その収支のことを例にとりましたけれども、副市長の立場でいかがでしょうか。

○安部 隆委員長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 ご提案いただきましてありがとうございます。そのような観点から検討をしていきたいというふうに考えておりますが、特に審査員の中で問題ありとして評点を低くしていることがあればそこをピックアップした形で、何が懸念事項なのかということも含めて最後に総合審査のような形で選定委員会で協議するというようなこともあるだろうというふうに思います。そういうことも含めて、検討させていただきたいと思います。

○安部 隆委員長 7番、我妻 昇委員。

○7番 我妻 昇委員 大変いい答弁いただきましたので、ぜひ今後の指定管理のあり方にもかかわってくるかと思っておりますけれども、ぜひよりよい指定管理のあり方を目指して検討していただきたいと思います。

最後に、道の駅なり今後の観光振興については、やはり後世の方々に恨まれないように、例えば私の息子が大きくなったとき、なぜこんなにつくったんだお父さんということにならないようにしっかりと私もこの立場で考えていきたいと思っておりますので、ぜひ行政当局の皆さんにおかれましてもしっかりと精査をしていただきたいというふうにつけ加えまして、総括質疑を閉じたいと思います。ありがとうございます。

した。（拍手）

○安部 隆委員長 傍聴者をお願いいたします。傍聴は静かに傍聴していただくようお願いいたします。

大道寺 信委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位5番、議席番号8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 私の総括質疑につきましては、通告をしてあります2点について質問をさせていただきます。

都市再生整備事業、ここは観光交流センターに絞って質問をさせていただきますが、考えてみますと、恐らくこの課題については1年ずっと議論してきたのではないかと思います。3月の提案ありましたけれども、昨年ちょうど11月だったと思いますが、市長から全員協議会でこういうことを考えてますと、こういうペーパーというか、渡されたのが、そこからのスタートだったなというふうに思っております、この1年間、私も何回も質問をさせていただきましたので、ぜひここは整理をすると、こういう意味でもまずこの3点、都市再生整備事業、観光交流センターについての3点について質問をさせていただきます。

最初の、かわのコンセプトが外れたことによって場所にこだわる必要はないのではないかと、こういう質問であります。今回の議会の中でも、あるいは補正予算の提案でも、いわば最上川河川緑地公園については、この計画、いわゆる都市再生整備事業での整備については断念をすると、こういうことを市長からずっと表明されてまいりました。これはかわと道の駅のコンセプト、いわゆる舟運文化も含めてその目的というのはずっと話されてきましたから、そのた

めにこの河川緑地公園をずっと生かして相乗効果できるようにしたいんだと、こういう話でありましたが、この河川緑地公園というのは、断念をしたということからすれば、かわという一つのコンセプトというのは、これ、なくなったのではないかと、こういうふうに思うんです。

ただ、その点からいうと、多分、一般質問で高橋孝夫委員からの質問でもあったと思いますけども、あるいは先ほどの江口委員からの質問もありましたけれども、河川緑地公園については、この都市再生整備事業、社会資本整備総合交付金ですか、この交付金によっての事業はしないんだと断念したんだと、こういう話ですけども、話の端々には国交省との関係でとか、あるいは機会があればと、こういうふうに受け取れるわけですけども、その辺については、私としては、かわのコンセプトというのは外れたんでその場所にこだわる必要はないのではないかと申し上げてるんですけども、その河川緑地公園の今後の考え方について、もう大体聞いておりますけれども、再度市長の考え方についてお聞きをしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、河川緑地公園についても賛成していただいている委員の方、大勢いらっしゃるわけですけども、やはりできるだけ多くの委員の皆様から賛成していただくためには、河川緑地公園を整備しないということがより多くの委員の皆様から賛成いただけるということで、このたびの事業では整備を断念するといいますか、しないということを申し上げております。

それで、いろいろ大道寺委員おっしゃるように、3月から9月までのいろいろな一般質問や予算総括、あるいは全員協議会等々で皆様からいただいた意見をいろいろ判断、総合的に考えますと、もう既にフットパスとか、あるいは舟通し水路、あるいは船着き場の跡、こういった

ものを国のほうで直接整備いただいているわけです。ですから、今さら市のほうでまたそれを買って取って整備すると、しっかりと維持管理ができないのではないかと、ですから、しないほうがいいんじゃないかというようなご意見が多かったというふうに考えております。したがって、決してかわと道の駅が一体となった今の考え方、コンセプトが違うものになったというものではありません。一番いいのは、その観光交流センターとフットパスとか、そういう舟通し水路、そういったところにスムーズに行ったり来たりできる、なおかつ、タスの裏側から、タスの裏側に小出の船着き場跡地があるわけですね。それで、今回の予定地のちょっと北側のほうに、長井橋のところに船着き場の跡地があるわけですね。そのところがつながってるわけですね。ですから、そのところは市でなくとも、もう既に国である程度整備いただいているので、いろんなことで一体となってかわと道の駅といえるんじゃないかと。今さら市がお金をかけてそこをしなくてもいいのではないかと、という考え方に立って、今回は河川公園の整備をしないということで考えたところでございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 市長からの話は、それはそれで理解できましたけれども、ずっとこれまで説明してきたところからすれば、よりその川と道という、いわゆるほかにないようなところでやりたいということだから河川緑地公園も入れたと。しかし、それが皆さんの意見があっただけで断念せざるを得ない、整備はしないと。しかし、既に整備してるからそこは十分にコンセプトはつながってるんだと、こういう説明だと思っております。それはそれでそういう考え方だと思っております。

ただ、これまで言ってきたことからすれば、川というのは非常に、川というコンセプトというのは薄れてきてるわけですね、今までよりは。

だから、そこにこだわっている必要があるのかというのを私申し上げてるところなんですよね。だから、確かにそのコンセプトは一部残るでしょう。確かに舟通し水路なりフットパス、これは事業やられてるわけですからそこはそうなんでしょうけども、私は今までの説明からいって随分薄れてきてるんじゃないかと、こういうふうに捉えたもんですからお聞きをいたしました。

そこで、先ほどちょっと質問したのは、市としては整備する必要はないというお話なわけですが、基本的にそこは市でなければ、これ何回も同じこと聞くの失礼なんで、国にやってもらうのはやってもらうと、こういうスタンスでいくのかと。江口委員言ったのは、その辺は少しちょっと整備できる方法あるんじゃないかみたいなのおっしゃったんですけども、いずれにしたってあそこ、私は河川公園っていうのは長井橋の下の今の状況を見ますと、やっぱり管理なり非常に難しいんだと思うんですね、維持管理等々含めて。その意見はこないだの議会と市民との意見交換会でも実は市民の方から言われてまして、そこを見れば非常に大変だろうというお話だったんですけども、そういう意味でいうと、今後国から整備してもらえらんだったら整備してもらおうと、端的に言いますと。そういう思いはおありになるんでしょうか。お聞かせください。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 考え方ですが、先ほどの繰り返しになりますけれども、かわと道の駅が何が何でも私が考えてるようにしなければならぬということではないと。そうじゃなくて、あくまでも長井市としてなすべき点は、やはりそこが観光インフォメーションセンターであり、長井市のいろんな情報を発信する場所として整備すべきだということでありまして、したがって、河川公園の部分もできたら一番いいなど。市民のいろんな層からもいただいたかわの駅、水の

駅にもマッチしますし、道の駅と一体になればいいなということではありますが、それが外れたから、じゃあ全くそれが通用しないコンセプトだということではないということでございます。したがって、国のほうで、結局民地が中途半端な形で残ってますんで、そこを国がどういうふうに対応されるか、かわまちづくりの事業はあと2年間延長して整備いただきましたので、より河川敷が市民の皆様にとって、あるいは安心安全な堤防となるような、そういった整備をお願いしていくということで考えておまして、どうなるかはわかりませんが、今のままでも十分一定の機能は果たしてるものというふうに考えてます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 基本的には今回の提案の中にはその河川緑地公園は断念したということしか入ってませんのでこれ以上申し上げません。ただ、前にも申し上げましたけれども、河川敷というか河川の整備については、本当にこの異常気象の中で集中豪雨等含めてあるわけですから、むしろ私は国交省にお願いするとすれば、そこはやっぱり堤防のいわゆる強化といいますか、そういうことをきちっとお願いしていくべきではないかなと思っておりますので、それは意見として申し上げておきたいと思えます。

そこで、今言われましたように、このいわゆるインフォメーションセンターとしての機能だと、こうおっしゃるわけですし、だとすれば私はこの場所というのはもうこだわる必要ないんじゃないかということもずっと申し上げてまいりました。あるとすれば、先ほど来から言われてるように、市長はそのまちなかとの中心市街地の活性化の関係でそっちとえば抱き合わせでやりたいというようなことを盛んに言われてるわけなんですけども、なかなかそこに集まった人をまちなかに誘導するってなかなか難しいんだと思うんですね。いろんな人いますけど、難し

いんだと思うんです。問題は、言われてるように、その観光と結びつけると物語つくんなきゃいけない。その舟運文化との関係だと盛んにおっしゃるわけですが、私疑問なのは、その舟運文化って盛んに市長はずっと言われてますけど、私は小さいときから長井市が舟運文化のまちだなんていうのは全然頭になかったもんですから、じゃあその具体的に市内の中で舟運文化を残したというか、そういうものを残した施設とか場所とか、そういうのが具体的にあるのかというのが、ちょっと浮かばないんですけども、その辺についてはどういうふうに市長お考えですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えする前に、先ほど、ちょっと戻りますが、かわまちづくりの事業の中で、堤防のないところ、例えば森とか東五十川をつくっていただいたり、あと町場側の東町であったり舟場のところを堤防の勾配を30%勾配から15%勾配まで下げていただいて強固にしています。これがかわまちづくりのもう一つの柱であって、そういったことをなお一層強固なものにさせていただくような要望はしてまいりたいと思います。

それで、今、大道寺委員からのご質問でございますが、歴史的なまち並みということであるところまで申し上げてるのは、やっぱり十日町周辺、あるいは、あら町、館町周辺ということではありますが、文化生涯学習課のほうで歴史的なまち並みということで舟運のところを、エリアですね、河川敷も含めて、多分、大道寺委員もごらんになっていらっしゃると思いますが、そういったことで、あの周辺が、今、面影はないんですが、ある程度きちんと説明するとああなるほどなというところはあると思います。例えばあら町ですと、やはりやませ蔵さんがやっぱりつむぎ問屋として非常に栄えたわけでございまして、それらの名残として10の蔵と

水琴窟そういった非常に東北でも珍しい庭があったりというようなところが一つ名残だと思います。あとは、やはりもう既にいろんな近代的な建物がいろんなところに入ってますので、そういったところをもう一度どういうふうに見せていくかということが重要だと思っております。場所は、だったらあそこじゃなくてもいいんじゃないかと、インフォメーションとおっしゃいますが、先ほど私言いましたように、やっぱり藩の船着き場、あるいは小出の船着き場というのはあそのすぐそばなわけですよ。確かに河川公園として整備はしませんが、きちんと行く気になればわかるわけです。それが今後どういうふうにして国のかわまちづくりで整備の協力いただけるかどうかわかりませんが、そこから例えば黒獅子の里案内人とか観光ボランティアの方たちは、今もずっとまちなか歩きの中でそういった最上川の舟運で栄えたまちですよということでいろんなところを紹介したり、あるいはその以前の黒獅子のことを紹介したりして観光客の方に非常に喜ばれておりますので、ですから、場所がじゃああそこでなければどこでもいいんじゃないかということではないというふうに思っています。以上です。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 確かに、例えば、やませ蔵とか十日町の一部ですか、そういう名残はあるとおっしゃるんだけど、どうも私びんとかないんですね。無理くり何か物語つくって、その残ったところを説明すればわかるというようなことでは観光に結びつくのかなという疑問はあります。まあそれはそれでいいでしょう。そういうことを考えて観光振興計画なんかつくるんでしょうから、それはそれでいいと思います。

そこで、この場所の関係については先ほども、江口委員も言われましたし我妻委員もいろいろ言われてるわけですが、先ほど言われたの

は、いわゆる営業補償をするようなことはできるだけ避けたいと、こういうお話と、それから、宮、小出のバランスとか、それから交通渋滞のことを言われてるわけです。

これは前から言ってるとおり、営業補償の関係は、それは多分今回初めて市長が言われたと思うんですね、その方針として。前はそのことじゃない、さっき言った観光との関係、いわゆるまちなかとの関係と交通渋滞の関係というようなことが主だったと思うんですけども、それは恐らく、私たちもずっと、例えばですよ、タスの長井ダム工事事務所跡地、旧ですね、そのところをどうですかというようなお話も提案としてしてきました。その比較どうですかっていったら、今回初めてその費用出ましたよね。その比較でいくと、確かに向こうの旧長井ダム工事事務所跡地については、営業補償のところ非常に大きいんですよ、金額が。そのことがあってそう言われたんだと思いますけども、確かにそういうふうに比較すれば、こっちは営業補償するところが少ないというようなことですから、それはそれでいいんだと思いますけども、少なくとも、私はずっとこの場所にこだわっているのは、一番の問題はやっぱりさっきも出ましたけども、保育園と学校が近かって、これが最大の問題なんです。これは市民からも言われてます。いろんな対策を打つとおっしゃるんですけども、ここは非常に残る問題だと思うんですね。

恐らく保育園の皆さんの、いわゆる園長先生含めてのところにお話しに行きました、あるいは学校にも行きましたとおっしゃるのだけど、実際には保護者の皆様、非常に不安がっているのは間違いないんです。例えば保育園のところの保護者の皆さん、危険じゃないかと。何かあったら困ると、こういうのありまして、そういうことも含めて、私はその場所というのはもう一度考える必要があるんじゃないかと、こういう

ふうに思ってます。

渋滞の問題言われますけども、ここはバイパス、同じバイパス道ですから、確かに信号あればということだけど、信号だって時間では必ず赤になっていくわけですから、ずっと、もし多く入れればそれこそ長蛇の列になるというのは同じなわけですし、そういう意味からいうと、申し上げたように一つの川という大きなコンセプトが外れたんで場所にこだわる必要はないんじゃないかと、こういうふうに申し上げてるんですが、市長の考えをお伺いしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 やはり、繰り返しになりますけれども、バイパス沿いの長井橋からさくら大橋までの間は限られた場所でありますので、どこを選定してもいろいろ課題はあると思います。しかし、総合的に見て今の場所が一番やっぱりよりベターだと。なおかつ、この事業の規模からいって土地代、補償代で最初から除外したわけですけども、営業補償というのは非常にお金かかるわけですから、そういったことじゃなくて、より身の丈に合った規模の施設をつくるとしたら今のところが一番よいと。それから、確かに保護者とか、あとは十分にまだ話しておりませんが、長井小学校のすぐそばがバイパスということ自体が危ないわけでありまして、そういったことも含めて、より安全にできるだけ影響のないような形でまず対応しながら今の場所で何とかご理解を賜りたいなど、そのように思っているところでございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 それ、市長の言うことも理解できないわけじゃありませんが、私はそういうふうに思っているということを申し上げたいと思います。

二つ目の観光交流センターに必要な敷地の確保が優先ではというふうに質問をしますけれども、前にも質問したときは、結局、できるだけ、

広いほどいいんだって市長おっしゃったと思うんですね、確保するには。ただ、その中の説明では、観光交流センターの今回の事業以外に、先ほどからも議論ありますとおり、直売所であったり物産館だったりレストランだったり、それから、場合によっては加工所だったり、こういうことも含めてこれから考えたいのというお話でございました。

ただ、それは残念ながら今のところ国の補助というのがあるものってはっきりしてないから、これからですと、これから考えますと、こうおっしゃるわけですが、私らはまだ決まってないことについてできるもんだという前提でいろいろ話してきましたけれども、最低限この観光交流センターということだけ見れば、これだけに観光交流センター、何するかというのがありますよ。トイレ、いわゆる観光案内所、それから休憩所ですか。最低限これだと思うんですけども、例えばこれに最低限必要な部分の面積はどうなんですかと、そこをまずどうやって確保するかということが一番だと思うんですね、優先だと思うんだよ。その上に立ってこれからの計画でどういう施設になるかによって全体の面積が決まると、こういう手法というか、その段取りを踏んでやるべきだとすれば、まず道の駅の、今、観光交流センター、いわゆる都市再生整備事業でやるのはこれだけの面積だということと考えていくべきではないかと思うんですけども、その辺についてどういうふうにお考えでしょうか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今回はあくまでも観光交流拠点施設ということでありますので、内部、どういう機能を持たせるかということは、これから、先ほど大道寺委員からあったように具体的にはそこで検討して決めると。ただ、類似の道の駅というふう考えた場合、例えば飯豊のめざみのほうはちょっと広いんですが、約2万5,000

平米、2.5ヘクタールあるわけですね。これちょっと広い、そこまでは要らないだろうと。やはりある程度の駐車場を、大型バスあるいは普通自動車、乗用車といったことの面積を考えますと大体普通の車が100台、それから、バスで5台から7台ぐらいのスペースで考えた場合、最低でも1万1,000から1万四、五千ぐらいまで必要だということ考えているところがございます。1万4,000ということ今回させていただいたのは、ちょうど隣接するところで白川ダムの方の敷地があるもんですから、それも含めると1万4,000平米ということ考えているところでございます、例えば加工施設とか飲食関係のところというのはこれから、もしかしたらスペース的に難しいかもしれませんが、その辺のところはもう少し詳細をしないとだめだと思っておりますが、大体類似の施設からいって最低でも1万平米、できれば1万5,000平米ぐらいあるのが望ましいと考えております。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 ですからこれ、結局まだ計画が固まらないのにずっと話されるもんだから、なかなかこの判断が我々難しいんですよ、正直言って。多く確保してて、残りも市で買うわけだから市の財産になればいいっていえばそれまでなんだけど、だけど、実際はそこだけきちっと説明されて、とりあえずの用地を保証して、国に出した都市再生整備事業で、ここだけでいうと6億幾らですか、3億幾らだけな、よくわからないけど、その範囲の中での事業だっているならばそこで、絞って我々議論できればいいんだけど、今までの話だと、ずっと伸びて大きくなっていくわけですよ。もうこれもある、これもあるって。じゃあ、その事業っていうのはどうなるんですかっていっても、今これからだっておっしゃる話なんで、なかなかこの辺が我々空回りしちゃうんですね。だから、私申し上げてるのは、もう観光交流センターと

というのは実際、考えてみたらその本当にコンパクトなものだけを考えてとりあえずやればいいんじゃないですかと。もちろんその周りの土地買えるかどうかというのはあるんだけどね。後で広げられるかどうかってあるんだけど、そういう考えでもう一度考えてはどうかと、こういうふうに思うんですけども、もう一度ちょっとお願いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 何回も同じ議論になるんですが、今回はいわゆる基本設計とか基本計画ですよ。その中で敷地を当てはめて設置するわけですから、それをごらんいただいた後、これ要らないんじゃないかといって切れればいいんじゃないですか。そういう話なんです。今の段階で全部じゃあ計画を出せと言われても、先ほどから江口委員、渋谷委員からもありましたように、だってないんですから、具体的なものがない。だから、そのための最初の基本設計とか基本計画とか、そういったものをお認めいただきたいという話してるわけですよ。ところが、それができないから我々判断できないと言われてますと、だったらもう事前に市の単独でそういったものをつくつとかなきゃいけないということになるわけですが、今回はそういったことを準備しなかったもんですから、ぜひ今回の事業でさせていただきますと。それで、もしこの事業だめだっていったら来年度の予算で切られる場合もあるわけですよ。ですから、私ども市とすれば、今回の予算が通ったから、じゃあこの事業全部通るんだよということでは考えておりません。幾ら設計のほう通っても、例えば用地購入費、これお認めいただかなかつたらそれで終わりですよ。ですから、一歩ずつ進むんですよ。一番最初の段階が今回提案させていただいてるわけでして、そのところでだめだと言われたら前に行けないわけですよ。ところが、大道寺委員がおっしゃってるのは、二段目の話をされてるわけす

ね。計画して、その中身どうだっていう話なもんですから、まずそこだけさせていただきます。6月は市で単独でいったんで、それも要らないだろうということだったから、9月はまた当初に戻ってそういう設計とか実施測量とかさせていただきますと。それが決まらないと規模も決められないんですよ。今の段階で何人雇用が生まれる、どのぐらいの経済波及効果、我々では議会にきちんとした説明できるデータを出せないわけですよ。ですから、まず最初の段階で基本計画、調査、そして実施測量を通してくださいと。次の段階でそれに基づいたまた予算を出すわけですよ、実施設計。その段階でだめだっていいたらまた削ればいいし、もっと広げろといえば広げられるわけですよ。それがまたオーケーいただいて、今度は土地を購入するとき、こんな高い土地じゃだめだっていいたらそれで終わりですよ。そういう事業なんじゃないですか、これは、一步一步。全て認めていただかなきゃいけないんですよ。最初認めたらなし崩し的に全部認めるっていうことではないと。ただし、生活環境整備だけっていうわけにはいかないんで、こういった基本施設は一緒になってやらなきゃいけないということだけがルールで、あとは非常に提案事業なもんですからいろいろ変えることができます、変更できますと。これは前のまちづくり交付金事業もそうだったじゃないですか。大分、小桜館の事業も変わりました。あと、フットパスも何路線かやる予定だったのがなくなったり、する予定なかったものが新たにできたりとかしてるわけですから、ちょっと説明がこの事業、なかなか難しいんですが、そういったことで一つ一つお認めいただいて最終的に着工というふうになりますので、やっぱりその段階でだめだと、これは変更しろということが議会の総意であればそれは変更するというので考えておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 市長の言い分は言い分
でわかりますけど、私共としてはやっぱり、今、
今回の予算も含めてずっといろんな3月からの
実施設計からその調査からの予算出されたわけ
ですけども、そのたびに申し上げてるのは、も
うある程度きっちり出してもらったやつで判断
せざるを得ないところがあるわけですよ。そこ
が非常に不安なわけですよ。だから、確かにお
っしまった、ここをひとつ認めると、次のはま
だまだそのときすればいいんじゃないかという
んだけど、けど、この入口のところできちっ
ととしかなければ、そのままいっちゃうんじ
ゃねえかって気がするんです。これ本当にふさ
わしい事業だったら、私、一般財源でその分の、
さっき言った物産館とか何かっていうのはそれ
だけ効果あれば補助もらわなくて一般財源でや
ればいいっていう議論になると思うんですけど
も、そういう意味でいうと、今回は、これは何
ぼ議論しても同じになっちゃうからあれだけど、
結局、むしろ今はそういうことのほうを考
えてコンパクトなところでまず考えてるべき
でねえかと、こういうふうに申し上げたところ
でございます。

時間もないんで、済みません。次、施設の分
散より集中のほうが効果があるのではないかと
いうことについて、これも何回も申し上げまし
た。これまた、先ほど我妻委員は複合施設
っておっしゃったんですけども、私はむしろ、
正直言ってタスとか文化会館とかっていう、
そのエリアをそういう意味では集客できるよ
うなところにしたほうがいいんじゃないかとい
うふうに申し上げてるんです、ここは。実は、
タスの運営というのは非常に厳しいって聞い
てます。特にタスパークホテルですね。これ、
合築ビルだから売りますっていったってな
かなかそうはいかない部分なんで、そうい
うところから考えると、タスを今後どうす
るかかって大変大きな問題にな

ると思うんです、市として。それに対して、
例えばその観光交流センター、いわゆる物産
館とか何かは地場産、あそこから出てきて
今の段階ではそういう考えもありますって市
長、何回も言っておられますので、そこを考
えると、むしろそのタスをどうするか、ある
いは今後考えられる市民文化会館の建てか
え等含めて、あのエリアについて私、そう
いうものを集めて、そこにこの観光交流セ
ンターあるいはこれから先あるであろうも
の全部そういうエリアに集中したほうが経
済効果等含めてあるのではないかと、こう
いうふうに思うんですけども、その辺につ
いてお考えをお伺いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大道寺委員がおっしゃる
こともよく理解できます。ただ、やはり文
化会館の整備については、今回上程させ
ていただいている来年の1月かないし2
月に初会合となる文化施設の整備検討委
員会で、やはり平成26年からの第5次
総合計画の中で明記すべき、それぐら
いのビッグプロジェクトですよ。です
から、そうすると、私が何回も申し上げ
たとおり、今回の事業は本町の街路事
業あるいは駅前通りの街路事業がこれ
から円滑に進むためには市としても今、
今回お認めいただいても4年後ですよ、
開業できるのが。ですから、そうい
うふうにおっしゃるのはわかるんです
よ。タスの周辺にしたらどうだと。だ
けど、それを文化会館とか待ったら10
年後とか20年後先じゃないですか。
それで街路事業いいんですかと。果た
して今、若い人たちが働く場がないと。
製造業もなかなか厳しい。ましてや第
3次産業ない、そういった中で何か
やっぱり市としてもやっと財政再建が
ある一定程度成功したわけですから、
やろうとといったときに10年、20
年後の先の話をというのと、今やる
というのと、両方一緒にやらなきゃ
いけないんじゃないですか。私は大道
寺委員がおっしゃることもよくわか
るんですが、それと同時に、

今やることはこういったことだと、我妻委員がおっしゃるのはわかるんですよ。いろんな複合的なものをするべきだと。役所を一緒に建てるなんて大変いい考えです。しかし、役所を一緒に建てるなんていったら、2年、3年のプロジェクトでできる問題じゃないですよ。これ、それこそ10年、20年計画ですから、今必要なのは、それも大切だけでも、今ある課題を解決するために何か手を打つ、そういったことで申し上げますので、タスの周辺というのはなかなか今の状況ですと営業してる企業等も多いわけですし、もう少しじっくりこちらは考えるべきだと。今必要なのはこの5年間の事業の中でいかに活性化を図るかということだと思っております。

○安部 隆委員長 傍聴者は静かに傍聴をお願いします。拍手も遠慮していただきたいと思いません。お願いします。

8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 この辺になるとまたずっと同じような議論ばかりしなきゃいけないんで、ただ、まあ確かに文化会館を建てるのに10年かかるっておっしゃるんだけど、それはいわゆる国との関係でどうなるかわかりませんが、南陽市というのは計画出てそんなかからないでもう建てようとしてるわけです。何か大分補助も決まったような話聞いてますけども、その辺それぞれ、南陽市は南陽市で工夫してやっておられると思いますから、その辺に学んでその辺のところを早くやる方法を考えたらいいんじゃないかと。私は少なくとも効果という意味でいうと、確かに、もうわからないのは中心市街地活性化と駅前とかなんとかおっしゃるのだけど、そこそこってどうも私の頭では結びつかない、即には。そっちはそっちで、もう活性化は活性化でどうやってやったらいいかっていうことを進めて、あるところで相乗効果っていうのが正しいんじゃないかなという思いもあって申し上げます。ちなみに、小出か宮か

のバランスなんて言うんだけど、私ら致芳地区、北のほうから来ると、小出も宮も同じ中央地区ですから、北とか南なんて余り関係ありません、正直申し上げて。中央は中央です。だから、そういうことも含めて、ぜひ私はそういうふうに思いますので、あえて非常にこの観光交流センターについては私の中ではまだきちっと整理できない問題があるということだけ申し上げておきたいと思えます。

次に、雇用問題についてお伺いをいたします。一つ目は、東芝ライテックの雇用に対する支援はということですけども、これは今泉委員が一般質問でされました。いろいろと東芝ライテックの工場閉鎖問題については市長にも大変尽力いただいたわけですけども、私、聞いてるところでは、もう労使の合意をきちっとやむを得ないという合意に至ったということで、こないだもありましたように3月閉鎖に向けて個々の面談、12月いっぱいまで多分第2次面談終わるんだと思いますけども、それでいけるいけないがはっきりしてくるという状況のようございまして、今の段階ではどれぐらいこちらに残るかというのはまだ定かではないというお話を聞いております。そのときも今泉委員からありましたように、東芝ライテック本社にはいろんな、市長として三つのお願いをしてきてるわけでありまして、厳しいけども検討はするというふうに言われているというふうにお聞きしてありますが、その辺についての回答というのは後ほどいただけるのかどうか、そこはどのようなふうを受け取っておられるのか、まず市長にお伺いしたいと思えます。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 これはどうでしょうか、私のほうからだけでよろしいでしょうか。必要だったら商工振興課の、はい。

私のほうでは、以前も今泉委員の一般質問でもお答えしておりますが、会社継続の三つの提

案ということでいろいろお願いしておりましたけれども、先日、ライテックでは東芝の電球だけでなく他社の電球の生産も行っていたとの情報を得ましたので、新たな提案として東芝以外の会社の電球生産を別会社で継続していく可能性の検討についてお願いをしました。しかし、東芝ライテックとしてもこのことは既に検討済みだそうございまして、白熱電球の今後の生産量とライテックが保有している製造設備の生産能力を考えると効率的な生産は難しく断念したとのことで、やはり設備の有効な活用は難しいということでございまして、なかなか思ったような回答が出てまいりませんので、このまま何かなし崩し的にだらだらだらだらになってしまう可能性があるのかなと考えておりますので、どっかの段階でやっぱり県とあるいは飯豊町長、飯豊町と一緒にどうするかということを検討しながら、もう一回きちんと手を踏まなきゃいけないかなと思ってるところでございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 そういう状況だということで、大変ご努力いただいております、最後までこれについてはぜひライテック本社のほうとの交渉についてお願い申し上げたいと思います。

ただ、そうはいつでも、現実には3月閉鎖ですから、これは行く行かないってはっきりしましたら、当然行けない方の雇用という問題が出てきます。商工振興課長、こないだの一般質問の答弁では、いわゆる再就職支援会社っていうところで東芝ライテックとしてその会社と提携というか連携して再就職を支援すると、こういうお話あったんですけども、その再就職支援会社って余りぴんと我々来なかったんですね。お聞きしたら、東芝が例えば北九州工場とか物すごい大きい工場を閉鎖したり、原発のある浜岡なんかにも工場あるのも、そこも閉鎖したり

して、この再就職支援会社っていうのが支援してるということなんだそうですけれども、その辺の再就職支援会社ということについてどのようなところなのか含めて、商工振興課のほうから、課長からお願いしたいと思います。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 それでは私のほうから再就職の支援についてご説明したいと思います。

退職となる社員の再就職の支援については、私どもでは再就職の支援会社、テンプスタッフという、一般的には人材派遣もやってる会社のようにございます。そこのほうに東芝ライテックのほうで委託しまして再就職のための研修も実施の予定とのことでした。それで、再就職のあっせん支援は本人の希望がかなうようにできるだけ長期に行うということです。あと、テンプスタッフでは、12月19日より工場内に相談室を開設して就職支援の相談に当たるとともに、4月からは長井市内に事業所を構えて地域内の企業を訪問し求人開拓を行うとともに、個人面接で適正を把握し、各人にあわせた就職あっせんを長期的な計画で行うということで説明を受けております。以上でございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 わかりました。それはそれで、まあ実績もあるんでしょからそういう、最後までやってくれる、支援してくれるというのは大変いいことだと思うんですけども、そんな金あったらもうちょっと仕事をよこしてもらいたいなという思いあるんですけども、それはそれでしょうがないと思います。ただ、そうはいいまして、なかなかこの地域の雇用状況を見ますとなかなか再就職というのは難しい状況にあることは事実だと思います。だとすれば、だとすればというよりも、そういう状況も含めてこの再就職支援会社、テンプスタッフですか、ここと、市行政との連携っていいですか、

そういうことについてはどのようにしていくのか、その辺について市長からお願いしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、大道寺委員からはいろいろお力添えいただいていることをまず感謝申し上げたいと思います。ちょっとお礼を申し上げるのが遅くなりました。

テンプスタッフですか、あそこは実際私もまだ1回だけ担当のほうで会っておりますが、具体的に私も何を手伝えるのかちょっとわからないところがありまして、例えば今度職を求められる社員の方が市のほうも何か協力しろというふうに言っていただけなのか、あるいはちょっとそっとしてくれということなのか、そういったところもぜひ大道寺委員を通じて労組のほうの意向などもお伺いしながら、こういったことは全力でやりますが慎重にやっぱりしなきゃいけない部分もあるかなと思っておりますので、いろいろご指導いただければというふうに思います。以上でございます。

○安部 隆委員長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

○安部 隆委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

なお、14番、大沼久委員から早退したい旨の申請が出されましたので、許可いたしましたので報告いたします。

8番、大道寺信委員。

○8番 大道寺信委員 休憩前、市長からお話ありましたけれども、恐らく今の段階では行政にどういう支援という具体的なものが余りない

んだと思います。ただ、不安になってるのは、恐らくその支援会社っていうのはいろんなプロのあれでしょうからいろんなことを考えるんだと思いますけども。ただ、やっぱり製造会社にいた人が職失うわけですし、職種がどうでもいってということにはなかなかならないということを含めて考えますと、そこについては非常に不安があるということのようでございます。そういう意味で、本当は全体として、景気もこういう状況ですから、景気がよくなって製造業がもっとわっとなれば雇用がどんどんふえてきますから、そうなればいいわけですけども、そういう状況もあります。あるいは、実際には恐らく3月退職の場合は自己都合退職じゃなくて会社都合退職になると思いますから雇用保険は丸々即出るということで、恐らく11カ月ぐらいは雇用保険受給ということがあると思いますので、まだ少し時間があると。しかし、その間に生活もあるということを含めてできる限りの支援をぜひお願いしたいということだけ申し上げておきたいと思います。

次に、来春の新卒採用状況って書いてありますが、これ採用の内定状況と今後の対応についてということで質問をさせていただきます。景気の話、今申し上げましたように非常に厳しいということで、今回の総選挙でも大きな課題が景気対策と雇用ということだったわけでありまして、ここ数年、大卒含めまして就職氷河期なんて言われて大変厳しい状況になってるわけです。

そこで、当地区における特に高卒の採用の内定状況について、現在の状況について商工振興課長にお伺いします。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 来春の新卒採用の内定状況と今後の対応についてちょっとご説明したいと思います。

ハローワーク長井の10月末の新規学卒者の求

職、求人、就職状況によりますと、求職者数は145人で昨年より3人ふえてる状況でございました。うち、県内の希望者が130人で3人の減、県外の希望者が15人で6人増でございます。これに対して、求人は昨年と同数の227人ですが、県内の求人数は昨年と比べ31人増の196人、県外求人数は31人減の31人でございます。

求職の中身なんですけれども、建設業や宿泊、飲食サービス業分野が求人をふやしております。ただ、その反面、製造業の求人は減少しております。求人と求職の職種が必ずしもうまくマッチングしてるとはいえないところもあります。こうしたこともあり、内定者数は97人で、県内が86人、県外11人で、総数ではほぼ前年並みですが、県内企業への内定者数が4人減、県外企業への就職内定者数が6人増という状況でございます。

さらに、長井市在住の高校生に絞って状況を見ますと、11月末現在で就職希望者71人のうち内定者は58人で、昨年度は98.4%の内定率でしたが、ことしは81.7%と昨年を大きく下回っております。これから求人がふえる時期ではありませんが、ハローワークや雇用対策協議会とも相談しながら求人拡大に努めていきたいと考えております。以上でございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 今ありましたように、全体としては求人数もあるということなんですけれども、中身を見ますと非常に業種によって増減があるということで、私、聞いている範囲でも、製造業が大幅に求人数減って、反面、建設業が非常にふえてると、こういう状況のようございまして、そういう意味でいいますと、なかなか高校生の就職希望する業種というのはどうしても製造業だと。どうしても建設業ってなかなか行きたがらない、親も含めてだそうなんですけれども、ということからすると、卒業までに未内定という可能性も非常に残ってるという状況のよ

うでありますけれども、その辺のいわゆる需給のアンマッチというのが非常に問題かなというふうに思っております。

そこで、白鷹町等を含めて行政側も非常に各企業なんかを回ってできるだけ求人を出していただきたいという願いをしてるようなんですけれども、その辺について長井市として今後その辺も含めての対応を考えていかなきゃいけないのかなというふうに思いますけれども、その辺について市長から答弁をお願いしたいと思っております。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

まず、商工会議所が中心となって組織しております西置賜の雇用の協議会ございまして、そちらと私ども行政がタイアップしていくということがまず基本であります。

大道寺委員がおっしゃるように、製造業については企業によってかなり開きがあって、ただ、一つ言えることは、大幅な来年の春の雇用を考えてる企業が非常にないと、少ないということでありまして、そういった意味では非常に深刻だと思っております。そんなことから、11月に人事を19日という非常に中途半端なときに出さざるを得なかったんですが、来年の7月の認定を目指して、来年の3月までに厚生労働省のほうに実践型の地域雇用創造事業の事業採択を求めたいと考えております。これはいわゆる建設業なんかもそうなんですけど、長井市全体の雇用に対してやっぱりもう少し企業側と連携をきちっととっていくと、そして私どもとしてもそういう雇用につながるような今回の都市再生整備計画も含めて観光交流とか、あるいはまちなかのサービス業とかそういったところの雇用もソフト事業などを通じて生かしていこうというふうに考えているところございまして、そういった意味ではぜひ大道寺委員からもさまざまな視点でご指導いただければなというふうに思っ

ております。もしあれでしたら、詳しいことは担当課長から、よろしいでしょうか。以上でございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 やっぱり雇用創出なり、長井市のこれから活性化、将来どうするという問題を考えますと、やっぱり、特に若い人の雇用というのはきちっと確保なんなければ全く衰退していくと。人口も減っていくという、こういうことだと思いますので、ぜひここは何とか雇用の場が確保できるような対策について全面的に行政としても支援なりをお願いしたいなというふうに思っております。

次に、今、市長からありましたように、実践型雇用創造事業のことについてずっと触れられてきました。私も委員会協議会のほうにはこういうペラ物を配ってありまして、これよくわからないなということなんです。確かに1地域当たり各年度を2億円とか、この金額的には事業規模非常に大きく書いてあるんだけど、なかなかその中身は難しいんだと、厳しいんだということですね。これ、採択できるのに。ところが、中身を見ますと、さっきも江口委員の質問に、いわゆるソフト事業だというお話あったわけですが、これどういう、確かに効果があるんだというお話をずっとお伺いしてるんだけど、これ具体的にどういうことでどういう狙いなのかについて若干詳しいことわかれば、商工振興課長でいいですか、じゃあ市長、お願いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私のほうから考え方をお話させていただいて、竹田主幹のほうから細部について答弁をいただきます。

まず最初でございますが、やはり大道寺委員からもありましたように、これから雇用が見込めるものというのは、恐らく建設業は結構あるのではないかと考えております。しかし、その部分をやっぱりもう少し、例えば

中心市街地の活性化の中で街路事業とか、あるいはこれから進めようとしてる住宅のニュータウンの分譲とか、そういったことなども全部絡めてきちんとした形で雇用がいけるようにしたいと、スムーズに移行できるように、そんなことで、ソフト事業を絡ませたいというふうに思っております。

あともう1点は、観光振興計画をつくっておりますが、観光振興計画は何といっても人づくりでありますので、人づくりによって観光業を例えば新たに興したいとか、あるいは何かビジネスチャンスで自分で商売やってみたい、そういう方のためのいろんな支援策はもちろんです。研修、そういった場をつくるにはこの事業が一番最適だろうということで、これ、実績を上げなきゃいけないですね。実績の人数、計画の人数に従って事業費が決まってくるということでございますが、長井市としては3年間で1億から1億5,000万ぐらいのソフト事業によっていろんな就職支援をできるんじゃないかというふうに考えておりますので、ぜひ来年の3月までその計画を立てなきゃいけないということでぜひいろいろご指導いただければと思います。

じゃあ、詳細については商工振興課の竹田主幹より答弁いただきます。

○安部 隆委員長 竹田利弘市街地活性化主幹。

○竹田利弘市街地活性化主幹 私のほうからは実践型地域雇用創造事業の具体的な中身についてご説明させていただきます。

この事業は雇用機会の少ない地域の自発的な雇用創造の取り組みを支援するもので、地域が提案した雇用対策に係る事業構想の中から、あくまでもコンテスト方式でございます。それで雇用創造効果が高いと認められるものや、可及的に地域の雇用機会を増大させる効果が見込まれる地域の産業及び経済の活性化等に資すると認められるものが選抜されることになっております。したがって、例えば有効求人倍率が

全国平均以上の、例えば仙台とか東京の地域では全く対象外でございます。ただ、山形県につきましては特例でどこの市町村でもなるようなことは聞いておりますが、村山地方は若干厳しいとは聞いております。

具体的な中身でございますけども、以前お配りしました表がございますが、事業構想には雇用拡大メニュー、人材育成メニュー、就職促進メニュー、雇用創出実践メニュー、四つのメニューがございます。実際雇用の拡大メニューでは、創業や雇用拡大等に伴う人材確保や労務管理についての研修等行って就職につながるようにしたいと思っております。人材育成メニューでは、地域就職者に対するスキルアップ研修や職場体験等を行って就職につなげたいと。あと、就職促進メニューでは、合同就職セミナーや面接会等の開催等を行っていきます。あと、長期的な3年スパンのことで考えますけども、雇用創出実践メニューでは、地域ブランド商品の開発、販路拡大を行う事業などに予算と人を配置し、実際に取り組んでいくことになっております。

以上、四つの事業を軸にしまして、先ほど市長のほうからもありましたが、長井市の規模、ほかの団体を見ますと、約1年間で50人程度で、3年間で150人程度になるのではないかなというところで、今のところ計画策定を目指しております。以上でございます。

○安部 隆委員長 8番、大道寺 信委員。

○8番 大道寺 信委員 大変いい事業だと思うんですけども、中身見ますと、市長が言ってるソフトなんですよね、結局、能力開発のためのセミナーとかそういうもの、いわゆる人材育成のセミナーとかそういうものをしながら雇用をどうやって創出できるかと、こういうことだと思います。恐らく地域雇用創造協議会というのができて、そこで議論されて3月まで出すと、こういうことだと思うんですけども、実はこの

手のやつはこれまでの緊急雇用対策等とあって、やってきたというか、同じではありませんけれども、いろいろやったんですね。ところが、結果としては、いわゆる累積ではこれだけ雇用したってなってんだけど、これが結局ずっと続くかっていうとなかなか続かないという問題だと思うんですよ。だから、ぜひその辺を含めて考えますと、この地域雇用創造協議会の中でどういものやるかというのは相当きちっとしていかないと、やっぱりこれはまずその間だけ雇用、150人だっというながら実は継続しないと、こういう問題があるんじゃないかと思ますので、その辺についてぜひきちっとしながら進めていただきたいということを申し上げて私の質問を終わります。ありがとうございました。

今泉春江委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位6番、議席番号4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 日本共産党の今泉春江でございます。本日最後の質問となりました。大変お疲れでしょうが、よろしく願いいたします。

まず、通告しております都市再生整備事業について伺います。私は3月から何度かこの都市再生整備事業について質問しております。多くの委員も質問されております。その中で自分なりに整理してまいりましたが、自分の疑問を解決するには至っておらず、この計画にはいまだ納得できません。

そこで、市長が今現在行っております市内での6地区の市民との意見交換会が終了し、現在大字単位で地域ごとの市民との意見交換会が開催されております。最初の6地区のときの市民との意見交換会と現在の大字単位の市長の説明